

GALLERIES

ART OSAKA 2024 開催報告書

2024.9

EXPANDED

ごあいさつ

大阪を周遊する盛夏のアートフェア「ART OSAKA 2024」

好評のうちに閉幕

第22回目となる現代美術のアートフェア「ART OSAKA 2024」を7月18日（木）-22日（月）の日程で開催いたしました。中之島エリア・大阪市中央公会堂「Galleriesセクション」と、北加賀屋エリア・クリエイティブセンター大阪（CCO / 名村造船所大阪工場跡地）とkagoo（カグー）の「Expandedセクション」、2セクション3会場で実施いたしました。猛暑の中での開催となりましたが、海外からの観光客の来場も増え、多くの方にお越しいただき、好評のうちに閉幕することができました。

今年は、2セクションで66軒のギャラリーが出展、うち海外ギャラリーが10軒と、コロナ禍前の水準に復調した他、大阪・ハンブルク友好都市35周年記念として、ハンブルクから3名の実績ある作家を招聘し特別展を開催いたしました。さらに、日本の現代美術の国際発信を強化するための新たな取り組みとして、海外からのキュレーターやコレクター、メディアの招聘も行いました。

ART OSAKA 2024は、国内外の若手からベテラン作家まで200名以上の、多様な現代美術が集結し、アートを紹介した意義のあるコミュニティの形成を促進することができました。

「ART OSAKA 2024」にご来場くださった皆様、出展ギャラリーの皆様、開催にあたりご支援くださいました関係企業・団体の皆様に心より御礼申し上げます。

入場者数：8626名 [昨年比：7180名]

内 訳：Galleriesセクション：3442名 [2680名]（3日間のべ）

Expandedセクション：5184名 [4500名]（5日間、2会場のべ）

売上総額：約1億3500万円 [昨年比：約1億1500万円]

[内訳：Galleriesセクション：1億円、Expandedセクション：3500万円]



開催概要

開催名称 ART OSAKA 2024
 チケット ART OSAKA チケット 3000円 / 当日券3500円
 Expandedチケット 1500円 (当日券のみ)

-Galleriesセクション*ブース形式のセクション

会場 大阪市中央公会堂 (国指定重要文化財)
 [大阪市北区中之島1丁目1-27]
 開催日程 7月19日(金)～21日(日) [内覧会:19日(金) VIP・招待客・プレスのみ]
 出展数 45軒

-Expandedセクション*大型作品、インスタレーションに特化したセクション

会場 クリエイティブセンター大阪 (名村造船所大阪工場跡地)
 [大阪市住之江区北加賀屋4丁目1-55]
 kagoo (カグー)
 [大阪市住之江区北加賀屋5丁目4-19]
 開催日程 7月18日(木)～7月22日(月)
 出展数 21組

主催 一般社団法人日本現代美術振興協会



[特別協賛]

 千島土地株式会社

[協賛]



三菱地所株式会社、サントリーホールディングス株式会社、野村證券株式会社、三菱UFJフィナンシャル・グループ、株式会社りそな銀行、みずほ銀行、株式会社紀陽銀行、
 泉州商運株式会社、株式会社ART OFFICE OZASA、医療法人 芳齒会 ウエハシ歯科医院、株式会社ウェアハウス、谷間総合会計事務所、株式会社宮本工業所、
 株式会社ステージ、清水建設株式会社、株式会社竹中工務店、ホルベイン画材株式会社 [ホテルパートナー]三井ガーデンホテル大阪プレミア
 [協力]クリエイティブアイランド中之島実行委員会、平成コミュニティバス株式会社、株式会社Luup、リーガロイヤルホテル、THE BOLY OSAKA
 [後援]大阪市、大阪市教育委員会、公益財団法人大阪観光局、一般社団法人関西経済同友会、ゲーテ・インスティテュート大阪・京都、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、駐大阪韓国文化院、
 台北駐日経済文化代表処、在大阪・神戸米米総領事館 [パートナー]DELTA、ONE ART Taipei、Art Scenes (株式会社TODOROKI) [助成]  大阪市

出展ギャラリー Galleriesセクション *は初出展

大阪 (13軒)

アートコートギャラリー
カペイシャス
ギャラリーほそかわ
ギャラリーノマル
GALLERY ZERO*
KAZE ART PLANNING
KOUICHI FINE ARTS
Nii Fine Arts
ノートギャラリー
studio J
TEZUKAYAMA GALLERY
YOD Gallery
Yoshiaki Inoue Gallery

京都 (3軒)

CANDYBAR Gallery
GALLERY TOMO
MORI YU GALLERY

兵庫 (2軒)

ギャラリーヤマキファインアート
川田画廊

三重 (1軒)

ギャラリーMOS

愛知 (4軒)

GALLERY IDF
ジルダールギャラリー

ケンジタキギャラリー

LAD GALLERY

東京 (14軒)

AaP/roidworksgallery
eitoeiko
FUMA Contemporary Tokyo | 文京アート
GALLERY麟
小山登美夫ギャラリー
MARUEIDO JAPAN
メグミオギタギャラリー
MEM
西村画廊
Otherwise Gallery
√K Contemporary*
SOM GALLERY*
s+arts
タグチファインアート

韓国 (4軒)

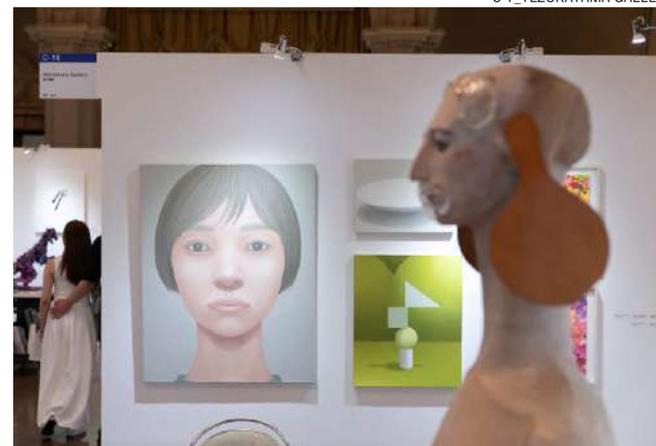
GALLERY JINSUN
Gallery Shilla
Gallery SP
KEUMSAN GALLERY

台湾 (4軒)

AKI Gallery
Der-Horng Art Gallery
朝代画廊Dynasty Gallery
YIRI ARTS



C-7_TEZUKAYAMA GALLERY



C-16_西村画廊



C-22_GALLERY JINSUN

出展作家 | ギャラリー Expandedセクション *は初出展

クリエイティブセンター大阪（CCO）：16組

アストリッド・コッペ | ギャラリー石榴*

後藤靖香 | TEZUKAYAMA GALLERY

石黒賢一郎 | GALLERY KOGURE

柄澤健介 | AIN SOPH DISPATCH

加藤隆明 | gekilin.*

こうす系 | GALLERY TOMO

松田幹也 | MORI YU GALLERY

森公一+真下武久 | サードギャラリーAya

中屋敷智生 | KOKI ARTS

西野康造 | アートコートギャラリー

西山美なコ | Yoshimi Arts

西澤利高 | Yu Harada

大澤巴瑠 | biscuit gallery

ソピアップ・ピッチ | 小山登美夫ギャラリー

Sunghong Min, Sanghoon Ahn | gallerychosun

葭村太一 | Marco Gallery

kagoo（カグー）：5組

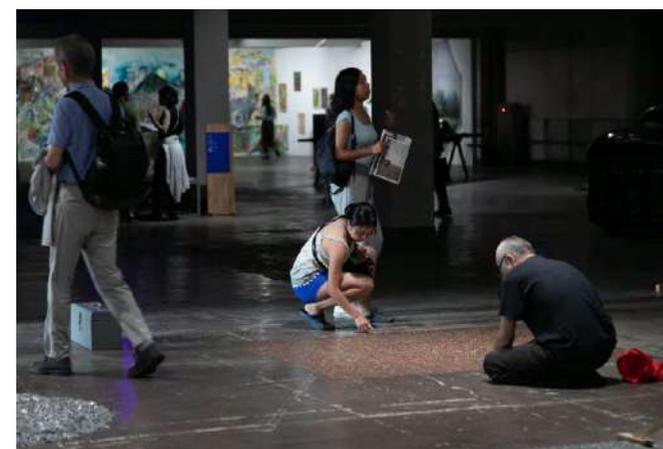
ケビン・リー | GALLERY HAYASHI + ART BRIDGE*

モフモフ・コレクティブ | YOD Gallery

西村涼 | アートゾーン神楽岡

Shlumper | BEAF

タビー | ギャラリーかわまつ



会場の様子 Galleriesセクション

日本の戦後美術を牽引してきたギャラリー、美術館クラスの作家たちの共演

約10年ぶりの出展である**ギャラリーヤマキファインアート（兵庫）***1では、関西の戦後美術を代表する2人の女性作家を中心に紹介しました。フェア開催中に大阪中之島美術館で回顧展を開催中であり（8/18会期終了）、版画や写真、絵画など多様な技法を通して「存在とは何か」を追求してきた**木下佳通代（1939-1994）**の幾何学的な版画や抽象的な絵画。そして70年に渡る革新的な軌跡の個展が7月初旬まで練馬区美術館で開催された**三島喜美代（1932-2024）**の、身近なゴミとしての空き缶やチラシを陶で表現した作品が特に注目されました。**ギャラリーほそかわ（大阪）***2では、出身の大阪・堺で追悼展が開催された（9/1会期終了）**福岡道雄（1936-2023）**と、同じく大阪出身の新進気鋭の作家である**野原万里絵（1987-）**、異なる世代の作家としての日常とものづくりの姿勢、その差異と共通点を二人展という形で示しました。**タグチファインアート（東京）***3は韓国の**キム・テクサン（1958-）**、大阪出身の**流麻二果（1975-）**、ドイツの**ミヒャエル・テンゲス（1952-）**と**ペーター・トレンス（1954-）**を紹介。独自の色彩感覚と色彩構成をもつ作家たちの、鮮やかで静謐な空間が見るものを魅了しました。**ケンジタキギャラリー（愛知/東京）***4では、名古屋市美術館で6月初旬に個展を終了した**吉本作次（1959-）**の寓話的な作品や、9月から大阪中之島美術館で個展を開催予定で、国際的に活躍する**塩田千春（1972-）**の代名詞である糸によるペインティングなど、幅広く紹介しました。

Galleriesセクション初出展の新進気鋭のギャラリー

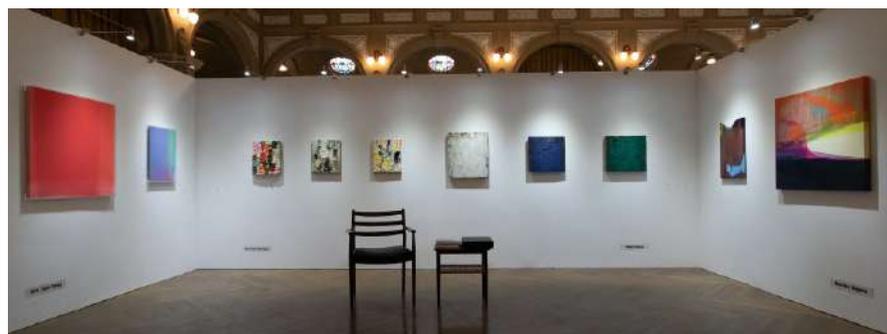
Galleriesセクションで一際異彩を放っていたのは、**SOM GALLERY（東京）***5から出展された《Human 1》（2024）。同ギャラリーで4月に初個展をした**黒瀧藍玖（2000-）**は、織物の造形の特徴を立体に落とし込み、繊維の交わりにより、囚われた存在としての人間の姿を浮き彫りにしました。2020年にオープンした**√K Contemporary（東京）***6では、**岸裕真（1993-）**を個展形式で紹介。岸は自作した画像生成AIで作品を制作、また自身の個展のキュレーションをAIに任せるなど注目の作家で、今回は歴史上の「聖母子像」をAIに学習させ描いた作品などを展示しました。2018年にスタートした**CANDYBAR Gallery（京都）***7は日常で見慣れた

器を大胆に変形・湾曲し、ユーモアあふれる新たな風景を生み出す**梶本佳子**

（1982-）や、手描きでテキスタイルを思わせる画面を色彩豊かに表現する**松岡柚歩（1996-）**、そして油絵や版画、版木などさまざまな技法で過去・未来・時間をテーマとする**谷口典央（1988-）**、3名の若手作家を紹介しました。

台湾、韓国の主要ギャラリーの出展

海外からのギャラリー出展がコロナ禍以前の水準まで復調し、韓国と台湾を代表する8軒のギャラリーが集結しました。韓国で30年近くギャラリーを運営する**Gallery SP***8は、幻想的な肖像画を描く**Jaeheon Lee（1976-）**と、絵画と彫刻を行き来する**Donghoon Rhee（1991-）**を紹介しました。同じく韓国・テグで30年以上ギャラリーを運営する**Gallery Shilla***9は、**Park Chang Seo（1974-）**や**アラン・チャールトン（1948-）**など、ギャラリーが長年取り扱ってきたミニマリズムに根差した韓国やイギリスの作家たちを紹介しました。台湾を代表する現代美術ギャラリーである**AKI GALLERY***10は、大航海時代にポルトガル人が「Ilha Formosa（美しい島）」と感嘆した台湾の、風土や文化をテーマにし、台湾と日本で長年活動してきた写真家、**沈昭良（Chao-Liang SHEN / 1968-）**など、5名の作家による多様な表現を紹介しました。同じく台湾で、1200平米に及ぶ広大な工場跡地をスペースとして運営する**YIRI ARTS***11は、「FACE 2022」でグランプリを受賞した**新藤杏子（1982-）**を個展で紹介。繊細なタッチで描かれた自然と子どもたちの世界は、来場者をあたたかく包み込みました。



C-25_タグチファインアート*3

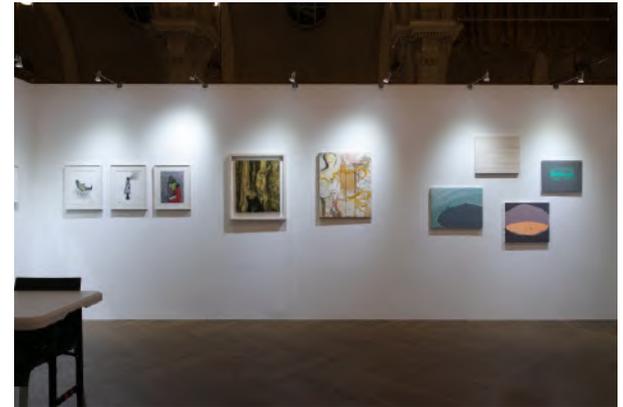
Galleriesセクション 会場写真



C-3_ギャラリーヤマキファインアート¹



C-21_ギャラリーほそかわ²



C-19_ケンジタキギャラリー⁴



C-32_SOM GALLERY¹⁵



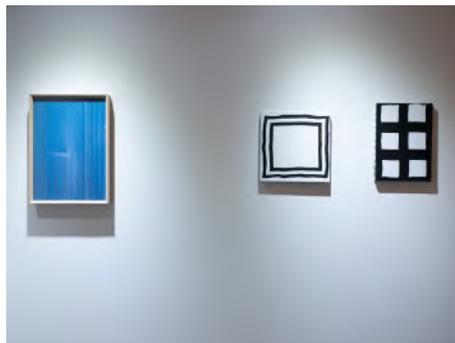
E-1_√K Contemporary¹⁶



C-11_CANDYBAR Gallery¹⁷



W-5_Gallery SP¹⁸



C-17_Gallery Shilla¹⁹



C-24_AKI Gallery¹⁰



C-8_YIRI ARTS¹¹

Galleriesセクション 会場写真-1



W-1_KEUMSAN GALLERY



W-2_ギャラリー-IDF



W-3_アートコートギャラリー



W-4_ギャラリー-MOS



W-5_Gallery SP



W-6_YOD Gallery



W-7_KAZE ART PLANNING



C-1_ギャラリーノマル



C-2_メグミオギタギャラリー



C-3_ギャラリーヤマキファインアート



C-4_Otherwise Gallery



C-5_eitoeiko



C-6_KOUICHI FINE ARTS



C-7_TEZUKAYAMA GALLERY



C-8_YIRI ARTS



C-9_AaP/roidworksgallery

Galleriesセクション 会場写真-2



C-10_川田画廊



C-11_CANDYBAR Gallery⁷



C-12_Der-Hong Art Gallery



C-13_LAD GALLERY



C-14_GALLERY 麟



C-15_ノートギャラリー



C-16_西村画廊



C-17_Gallery Shilla⁹



C-18_小山登美夫ギャラリー



C-19_ケンジタキギャラリー⁴



C-20_MORI YU GALLERY



C-21_ギャラリーほそかわ²



C-22_GALLERY JINSUN



C-23_GALLERY TOMO



C-24_AKI Gallery¹⁰



C-25_タグチファインアート³

Galleriesセクション 会場写真-3



C-26_s+arts



C-27_FUMA Contemporary Tokyo | 文京アート



C-28_シルダールギャラリー



C-29_Yoshiaki Inoue Gallery



C-30_朝代画館 Dynasty Gallery



C-31_Nii Fine Arts



C-32_SOM GALLERY¹⁵



E-1_√K Contemporary¹⁶



E-2_MEM



E-3_studio J



E-4_MARUEIDO JAPAN



E-5_GALLERY ZERO



E-6_カベィシャス

会場の様子 Expandedセクション

今年で3回目となるExpandedセクションは、2会場で計21組の作家が大型作品やインスタレーションを展示販売いたしました。

クリエイティブセンター大阪（CCO）内で舞台公演用に設えられたブラックチェンバーでは、**西山美なコ***^a（1965-/Yoshimi Arts）が、1997年に西宮市大谷記念美術館での個展で発表した《♡あこがれのシンデレラストージ♡》の再展示をおこないました。約30年前に特製ダンボールでつくられた作品は当時のままの輝きを放ち、Expandedセクションの導入の作品として相応しいものでした。また、CCOが誇る、柱が1本もない1200㎡の広大な空間である元製図室では、世界各地で多数のパブリックアートを手掛ける**西野康造***^o（1951-/アートコートギャラリー）が、最長25mの巨大作品を6点展示し、作家史上最大級のインスタレーションを展開しました。雲と宇宙の間に広がる世界“成層圏”をタイトルとした本展示では、来場者が自由に歩き回り、まるで雲海を歩くような感覚を体験することができました。

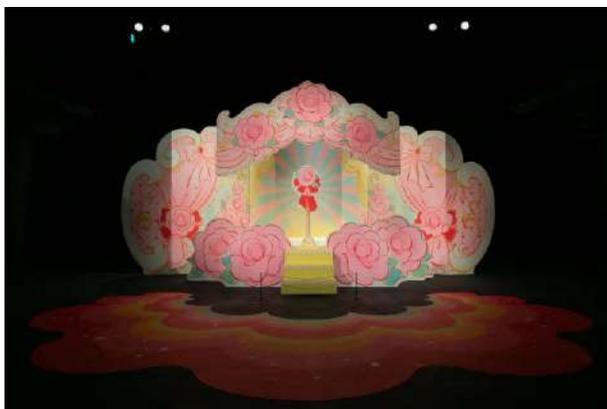
今年の特徴としては、来場者が作品に関わることのできるインタラクティブな作品が複数展示されました。**森公一+真下武久***^e（1958-,1979-/サードギャラリー Aya）は、鑑賞者の呼吸と光・音が呼応し、植物の光合成を促し酸素を生成する、地球の循環を体感できるメディアアートを展示しました。**松田幹也***ⁿ（1949-/MORI YU GALLERY）は、会期中、コインを床に並べ続け、コインがアートになり再びアートがコインに戻るパフォーマンスを行いました。何かの祈祷や修行の

ようなパフォーマンスは長時間にわたって繰り返され、来場者に新たな鑑賞体験を与えていました。

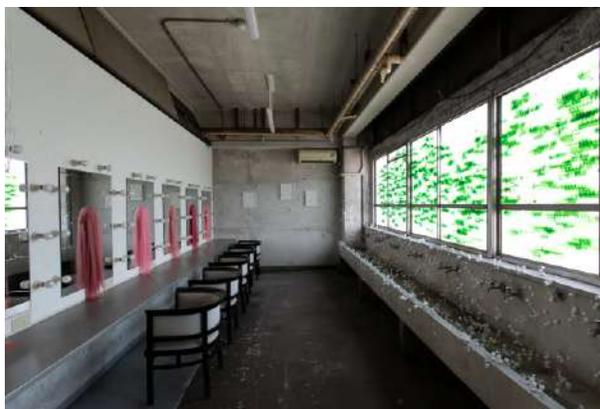
ギャラリー石榴からは、ベルリンを拠点に活動し、ドローイングを制作の核としている**アストリッド・コッペ***^b（1974-）が出展。本フェアでは、綿棒やバラや発泡スチロールなど、日常的に使われる素材を用いて、ドローイングから湧き出し空間に増殖していくイメージをインスタレーションで展開しました。**小山登美夫ギャラリー**は、国際的に活躍するカンボジアを代表する現代アーティストの**ソピアップ・ピッチ***^m（1971-）を紹介。竹や籐などカンボジアに根ざした素材を使用した有機的で幾何学的な作品群が展示されました。彼の作品は2022年に竣工した虎ノ門ヒルズレジデンシャルタワーにも恒久設置されています。

kagoo会場では、**GALLERY HAYASHI + ART BRIDGE**から、様々な文化が入り混じる香港で生まれ育ち、現在東京造形芸術大学在学中の**ケビン・リー***^s（1999-）を紹介。香港での彼自身の日常と、香港返還の歴史的瞬間を交えたインスタレーションを発表しました。大阪を代表する現代美術作家のヤノベケンジにより2022年に発足した**モフモフコレクティブ***^r（YOD Gallery）は、「モフモフ」という無意識的美的感受の探求を動機に制作したポップでユーモラスな作品で、老若男女問わず来場者を惹きつけました。

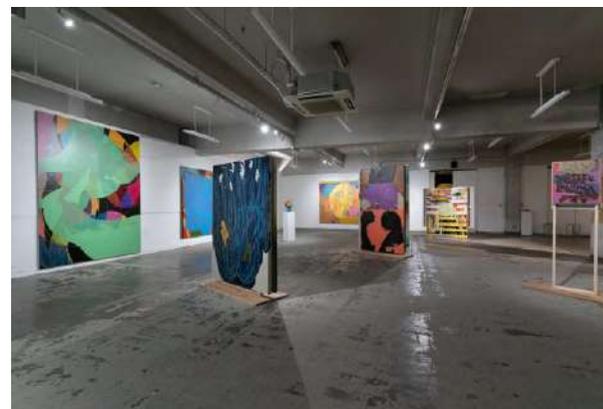
回を重ねるごとに展示場所や作品の形態、参加アーティストの国籍や世代を幅広く紹介する機会となっています。



a. 西山美なコ | Yoshimi Arts



b. アストリッド・コッペ | ギャラリー石榴



c. 中屋敷智生 | KOKI ARTS

Expandedセクション 会場写真



d. 加藤隆明 | gekilin.



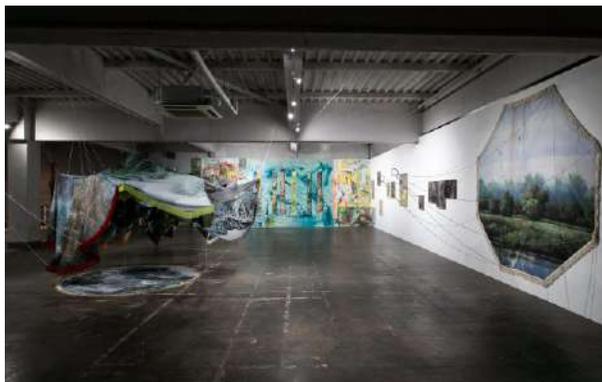
e. 森公一+真下武久 | サードギャラリーAya



f. 後藤靖香 | TEZUKAYAMA GALLERY



g. 大澤巴瑠 | biscuit gallery



h. ミン・ソンホン / アン・サンフン | gallerychosun



i. 西澤利高 | Yu Harada



j. 石黒賢一郎 | GALLERY KOGURE
©Go Nagai/Dynamic Planning



k. 柄澤健介 | AIN SOPH DISPATCH



l. 葭村太一 | Marco Gallery

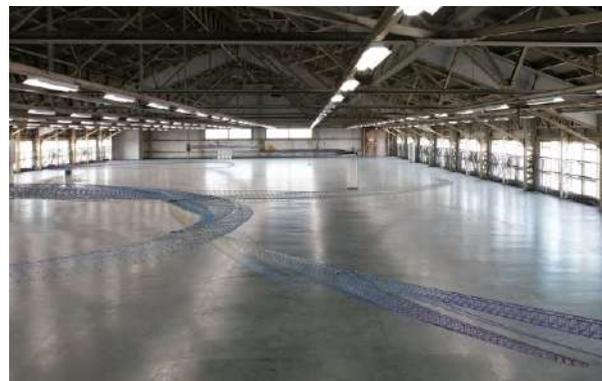
Expandedセクション 会場写真



m. ソビアップ・ピッチ | 小山登美夫ギャラリー



n. 松田幹也 | MORI YU GALLERY



o. 西野康造 | アートコートギャラリー



p. こうす系 | GALLERY TOMO



q. Shlumper | BEAF



r. モフモフ・コレクティブ | YOD Gallery



s. ケビン・リー | GALLERY HAYASHI + ART BRIDGE



t. タビー | ギャラリーかわまつ



u. 西村涼 | アートゾーン神楽岡

特別展 大阪・ハンブルク友好都市35周年記念展「すべては水であられる」

Expanded会場のkagoo3階にて、大阪・ハンブルク友好都市35周年を記念して特別展「すべては水であられる」を開催しました。
国際的に活躍する、ドイツ・ハンブルク在住の3名のアーティストの展覧会でインスタレーション、ビデオアートなど、多彩な作品を展示しました。
設営から撤収含め出展作家が来日し、会期中にはアーティストトークやパフォーマンスも開催しました。

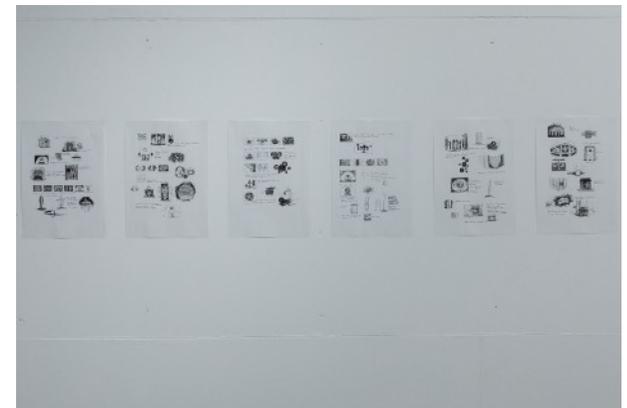
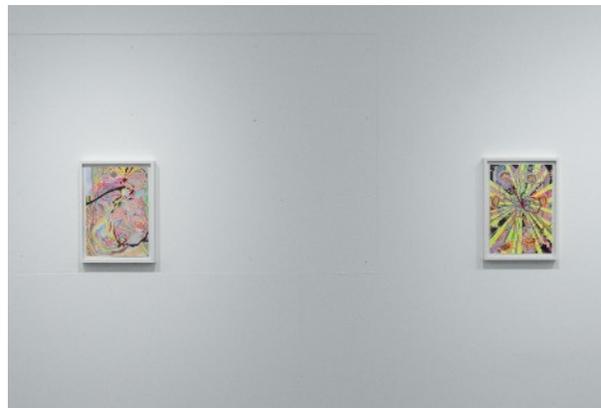
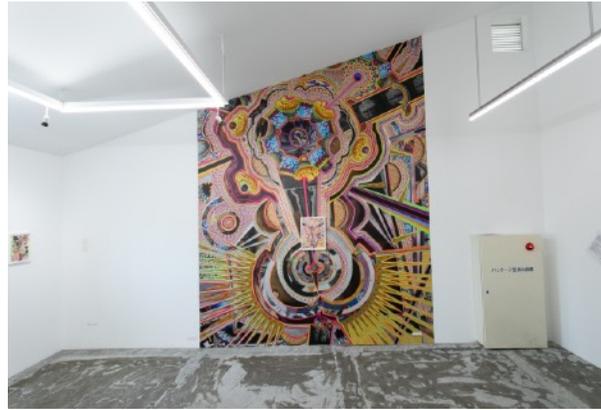
出展作家：マリエラ・モスラー、オリバー・ロス、ジョセフィーン・ベツトガー

企画：Mikiko Sato Gallery

共催：ハンブルク市

助成：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、大阪市

協力：株式会社プリズム



イベント

現代美術に関わる人々の裾野を広げるため、作品解説ツアーやトークプログラムを実施しました。

Expanded 作品解説ツアー&インスタライブ

大型作品を中心に展開する「Expandedセクション」の出展作家やギャラリストが作品の見どころを解説するインスタライブを行いました。

日時：7月18日（木）16:00-18:00

会場：クリエイティブセンター大阪、kagoo

進行：松尾良一（TEZUKAYAMA GALLERY ディレクター）、
櫻岡聡（FINCH ARTS ディレクター）



大阪・ハンブルク友好都市35周年記念展

「すべては水であられる」アーティストトーク

特別展に出展するドイツ人作家3名によるアーティストトークを開催しました。これまで制作してきた作品から今回展示している作品の話までハンブルク在住のアーティストにお話をうかがう貴重な機会となりました。

日時：7月20日（土）17:00-18:30

会場：クリエイティブセンター大阪 2階

登壇：マリエラ・モスラー、オリバー・ロス、ジョセフィーン・ベツトガー

進行：櫻岡聡（FINCH ARTS ディレクター） 通訳：板谷早夏

参加者：33名



Expanded Party & Special Performance

Expandedセクション会場のkagooにてささやかなパーティーを行いました。ハンブルク展出展アーティストのジョセフィーン・ベツトガー氏による1日限りのプロジェクションパフォーマンスもおこない特別な夜となりました。

日程：7月20日（土）19:00-21:00

会場：kagoo

協力：株式会社プリズム

参加者：170名



協賛

本フェアの開催において多くの企業の皆さまにご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。



協 賛：ブース出展・ワークショップ開催

7月19日(金)~7月21日(日)

FMR.LTD MONNAIE DE PARIS

ART OSAKA 2024 Galleries / 大阪市中央公会堂 3F 小集会室



企画運営：株式会社モスフードサービス

ワークショップ「おもちゃのかけら - 繋いで飾ろう! -」

会場：大阪市中央公会堂 3F 第9会議室

ワークショップ監修：藤浩志（アーティスト）

対象：小学生（保護者同伴）*参加費 無料

協力：MORI YU GALLERY



地域連携

中之島・心齋橋・天王寺エリア 連携期間：7月6日(土)～7月28日(日)

相互割引：国立国際美術館 特別展「梅津庸一 クリスタルパレス」

graf shop & kitchen [連携期間：7月6日(土)～21日(日)]

協力：クリエイティブアイランド中之島実行委員会

あべのハルカス美術館開館10周年記念「広重 一摺(すり)の極(きわみ)ー」

作品解説：エスパス ルイ・ヴィトン大阪 [連携期間：7月18日(木)～8月22日(月)]

アイザック・ジュリアン 「TEN THOUSAND WAVES」

北加賀屋エリア 連携期間：7月19日(土)～7月21日(日)

協力：千島土地株式会社

特別公開：MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA) / Super Studio Kitakagaya (SSK)

M@M (モリムラ@ミュージアム) / SMASELL Sustainable Commune /

千島文化 [連携期間：7月6日(土)-7月29日(月)] /

高野千聖「Generator」* 屋外展示 [会期：7月18日(木) -8月18日(日)]

来場者サービス

休憩場所、カフェの設置

出店協力：中之島ソーシャルイートアウェイク、

COCHI CAFE、GERATERIA solege

無料シャトルバスの運行

[運用期間 7月19日(金)～21日(日)]

1. Galleries ⇄ Expanded | 2セクション間
2. 北加賀屋周遊バス | 2会場と駅を周遊

電動マイクロモビリティのシェアサービス「LUUP」の仮設

[運用期間 7月18日(木)～22日(月)]

シェア電動キックボード・ポートの仮設を実施。

ポート数：北加賀屋エリア 5箇所

機体数：12台



1. 国立国際美術館 2. graf shop & kitchen 3. あべのハルカス美術館 4. MAZU, TURNING (TEN THOUSAND WAVES) 2010年 © Isaac Julien. Courtesy of the artist and Victoria Miro 5. MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA) 撮影：仲川あい 6. Super Studio Kitakagaya (SSK) 撮影：増田好郎



海外ゲスト向けツアー

台湾・韓国からキュレーター、メディア、コレクター等8名を招聘し、各セッション会場に加え、大阪の美術館、ギャラリー、アーティストのスタジオ等を訪問しました。



学生向けツアー

今年もExpandedセッションの「大学生以下入場無料」の取り組みを継続、また学生向けチラシを作成し、北加賀屋周辺の学校に配布いたしました。団体でご来場いただいた学生の皆様に向けて、ツアーを実施しました。

- 7月19日（金） 咲くやこの花高校 1、2年生 20名程
水都国際高等学校 高校生 2年生 5名
- 7月20日（土） 大阪成蹊大学 50名以内
- 7月21日（日） 港南造形高校 パブリックアート部+有志 15名

学生用チラシ配布先：

大阪市立加賀屋小学校、大阪市立東加賀屋小学校、大阪市立加賀屋中学校、大阪市立真住中学校、大阪府立水都国際中学校・高等学校、南大阪朝鮮初級学校



国内メディア掲載

新聞：「産経新聞」「読売新聞」「毎日新聞」「日経新聞」全4社

雑誌：「アートコレクターズ7月号」「月刊美術9月号」全2社

web：「美術手帖」「ARTnews JAPAN」「GEN DE ART Le Magazine」「Tokyo Art Beat」「Numero magazine」等、全31サイト・掲載数41件

ラジオ：大阪FM「FM COCOLO "THE MAJESTIC SATURDAY NIGHT"」ほか、全2放送



「毎日新聞」(7/20発行)



「日経新聞 夕刊」(8/2発行)



「月刊アートコレクターズ7月号」(6/24発行)



「月刊美術9月号」(8/20発行)



「美術手帖」



「ARTnews JAPAN」



「GEN DE ART Le Magazine」



「Tokyo Art Beat」



「Numero magazine」

海外メディア掲載

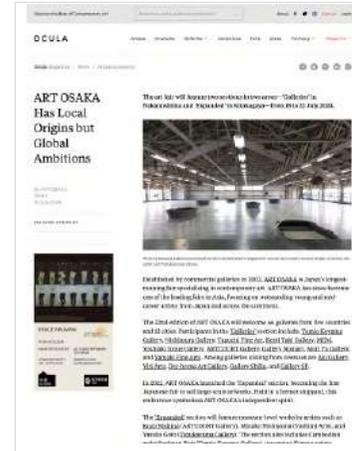
雑誌：「CANS藝術新聞 8月号」「Seoul Art Guide 8月号」全2社
 web：「OCULA」「artouch」全2サイト・掲載数3件



「CANS藝術新聞 8月号」



「Seoul Art Guide 8月号」



「OCULA」



「artouch」

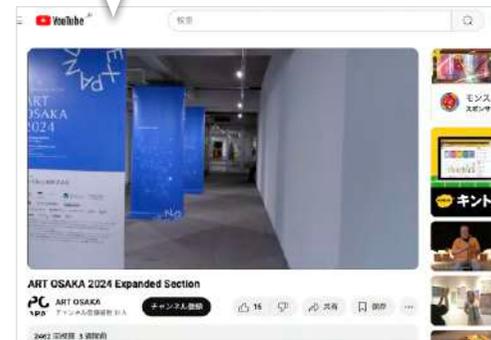
SNS発信

プロモーション動画やインスタライブなど、積極的な配信によって来場者の獲得に繋がりました。

-  <https://www.instagram.com/artosaka.jp/>
-  <https://www.facebook.com/artosaka.jp/>
-  <https://www.youtube.com/@artosaka7367>

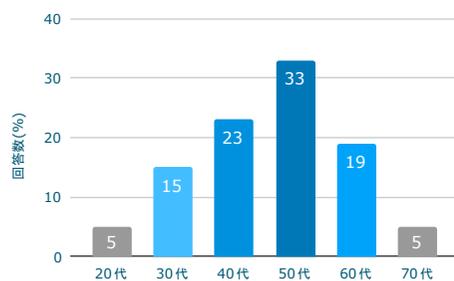


Expanded Sectionアーカイブ映像を公開中
 ご視聴はこちら→<https://www.youtube.com/watch?v=ncXSSR17L1a>

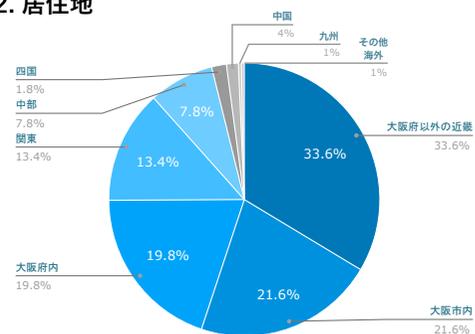


来場者アンケートより 回答数：283

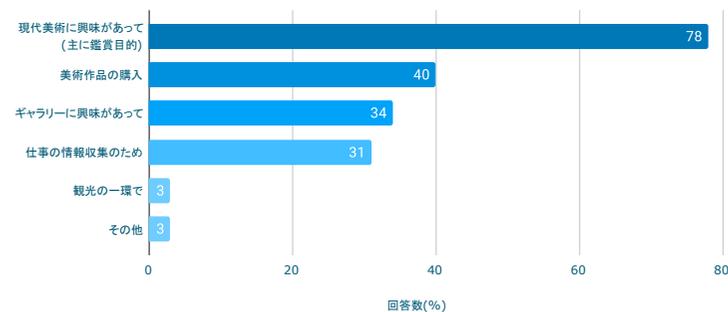
1. 年齢層



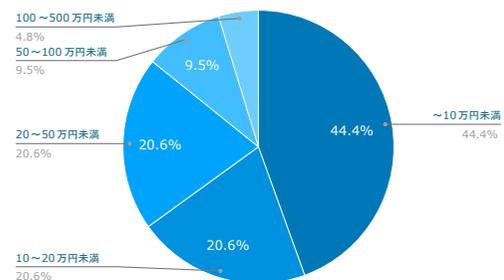
2. 居住地



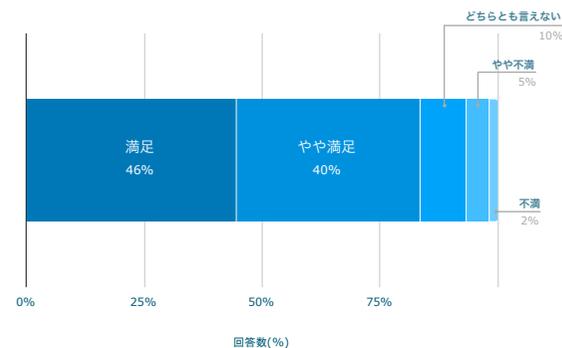
3. 来場の目的



4. 作品購入の価格帯



5. 開催内容について



来場者の声

「初めて鑑賞しましたが、作品数が多く規模の大きさに驚き、なぜ今まで全く知らなかったんだろうと思いました。見応えが存分にあり行って良かったです。」 (50代・会社員)

「北加賀屋の良さと公会堂の良さが異なっており、いずれも見応えがあり、毎年楽しませていただいています。」 (40代・会社員)

「様々な作家の作品を一堂に見れて良かった。来場者が多く活況であり大阪のアート熱を感じた。」 (60代・主夫/主婦)

「斬新な作品が多く、とても刺激を受け、楽しく拝見できました。」 (40代・デザイン/インテリア関係)

「当初は鑑賞目的のみで足を運んだつもりでしたが、とても気に入った作品があったので、購入しました。」 (50代・会社経営)

今後に向けて

ギャラリスト達の手で作り上げてきた「ART OSAKA」は、創設以来約20年に渡って、現代美術の普及、作品をコレクションする社会的意義を広めてきました。国内外でアートフェアが増えている中、私達は、関西・大阪に根ざし、地域の皆さまと連携しながら、国際的評価に値する質の高い現代美術作家の発表の場や、新しい作品との出会いの場、そしてそれを享受する社会環境の整備に尽力していく所存です。

また、長年培ってきた有機的なネットワークを基盤とする'アートを介した意義のあるコミュニティ'を介して、本フェアの国際的な評価を高めていきます。

2025年の大阪・関西万博の開催、その後の文化芸術のよりよい発展のために今後も努めて参りますので、来年もぜひご期待ください。

主催・運営：一般社団法人日本現代美術振興協会（APCA）

理 事

代表理事	森裕一 / MORI YU GALLERY
副代表理事	井上佳昭 / Yoshiaki Inoue Gallery
理事	林聡 / ギャラリーノマル
	石田克哉 / MEM
	加藤義夫 / 加藤義夫芸術計画室
	八木光恵 / アートコートギャラリー
	山口孝 / ギャラリーヤマグチ クンストバウ
監事	松尾良一 / TEZUKAYAMA GALLERY
顧問	細川佳洋子 / ギャラリーほそかわ

ART OSAKA 事務局

ゼネラル マネジャー	宮本典子
マネジャー	室谷智子
	川西遥
	鈴木香澄
アシスタント マネジャー	中島悠里

エキシビターリレーションズ

Galleries	岡田慎平 / TEZUKAYAMA GALLERY
	原田雄 / Yu Harada
Expanded	松尾良一 / TEZUKAYAMA GALLERY
	櫻岡聡 / FINCH ARTS

パブリックリレーションズ

プレス	小泉智子
SNS	熊野豊 / APCA
	玉置慎輔

広報物デザイン

WEB・システム デザイン	境隆太
写真撮影	待夜由衣子
	田浦ボン
翻訳	ブラザトン・ダンカン